



■ グリーンアジア専任教員のメッセージ



九州大学
グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教

渡辺 貴史

私の専門は哲学ですが、2013年にグリーンアジアに助教として参加しました。これは、文系・理系の区別がはっきりとしている日本の大学教育においては、珍しいことだと思います。グリーンアジアに参加する以前は、私は非常勤講師として、九州大学文学部で西洋現代哲学の演習を担当していました。グリーンアジア参加後は、アフタヌーンコロキウムや国内研修旅行、第一ステージのQE、ネパールやバングラデシュでの入学試験の実施、英語のカリキュラムの構築、グリーンアジアのカリキュラムの改訂などを担当しました。2014年以降は、環境システム学Ⅲのコースで環境哲学・倫理学、科学哲学の講義を担当することもできました。グリーンアジアの学生は哲学に不慣れで、講義の初めの頃は幾分混乱していたようですが、しばらくすると講義の目的を理解し始め、哲学について考え議論し始めるようになりました。彼らにとって哲学の講義は、あまり興味が湧くものではなかったかもしれません。何人かの学生は、最後の講義に至るまでずっと困惑し続けていたかもしれません。しかしながら、こうしたことは文学部の学生にも共通して生じることです。重要なのは、学生たちが哲学的なアプローチという新たに獲得した方法を使って自分自身で考え始めたこと、そうやって自分が今置かれている状況について客観的に反省しはじめたということです。ひとたび世界を異なる視点から見られる方法を獲得すれば、彼らの生涯のいつの時代にあっても、かつて学生時代に学んだ問題について思い返し、より注意深くかつ繰り返し問い続けることができるでしょう。その時には、彼らはより多くの経験とより深い知識を獲得しているでしょうから、学生時代よりも興味をもって考えることができると思います。そのような意味でグリーンアジアに貢献できたとしたら、望外の喜びです。



九州大学
グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教

前 奈緒子

GAプログラムで5年間経験したことは全てが新鮮でした。全ての講義を英語で実施され、理系の学生が社会科学を学ぶことにより俯瞰力を身に付けたり、国際インターンシップへの参加や国際力を身に付けたり、と普通の修士・博士課程では経験できないカリキュラムが多くありました。その分、学生は負担に感じたと思いますが、ここで得た経験が今後の彼らの研究に役に立つと感じてくれたら有り難いと思っています。

私個人としては、理系の学生に彼らの研究分野の社会的意義を考えるとといったことを指導できたことは良い経験となりました。社会科学の思考法を改めて考え直すことや、様々な学生の専門分野にも触れることによって理系の研究に対する知識も増やすことが出来、とても刺激を受けた5年間でした。また必須科目を担当したことにより、博士後期課程に進学してきた学生全員とコミュニケーションをとることが出来たことも幸運だったと思います。

さらに、学生や教員に対するアンケート調査を担当したことにより、GAに対する率直な意見を知ることができました。その中で、文系科目の履修は負担に思う学生もいましたが、視野が広がったという学生も多く見られました。今後、カリキュラムの置き換えによって、文系科目を履修する機会が大きく減ってしまいますが、今後も学生が自分の専門分野が社会にどのような役に立ち、どのような影響を与えるかを考える機会があれば良いと思っています。またGAの最大の特徴である英語でのコミュニケーションやプレゼンテーションを行うといった機会も減ってしまいますが、これらの能力を効率的に身に付けることが出来るようなカリキュラムを考えて頂ければ有り難いと思います。

今後、GAプログラムがどのような形で展開するかわかりませんが、このような教育をこれからの大学院生も受けることが出来るような環境になり、今回のプログラムの優れていた部分がこれからの教育に組み込まれていくことと願っています。5年間ありがとうございました。